ウエルビーイング社会とは
幸せで生産的な人と組織をつくる

矢野 和男
株式会社日立製作所フェロー・理事、株式会社ハピネスプラネット代表取締役 CEO

予測不能の時代です。

我々は、既に知っていることを活用できなければ、行き当たりばったりになります。しかし、知っていることを活用するだけでは、過去にとらわれて未来が創れません。新たなことを試して、学ぶ、即ち、実験と学習が大事なのです。既知のことを活用することと、未知のことに踏みだすことは、どちらも大事で、両者に正面から向き合う以外に我々には道はありません。

このように予測不能な変化に立ち向かうのは楽ではありません。だから前向きな精神的エネルギーが必要です。しかし, 変化に前向きに立ち向かうのは, それに見合う, やりがい、成長、生産性、品質、そして創造性を伴うものです。

私の周りを見ると、この２０年、熱意や職場のつながりがなくても、仕組みによって仕事が回る組織づくりの努力がなされてきました。そして、これにはある程度、成功してきたと思います。

しかし、これには副作用もありました。即ち、熱意もなく、つながりも薄い人たちが、過去につくられた仕組み通りに仕事をする組織になっている面があると思います。

その証拠にギャラップ社の調査では、日本企業の熱意のある社員の比率は 5%という低さです。さらにコロナによって、状況は悪化していることが懸念されます。

このような組織では、この変化の時代に適応できません。この変化に立ち向かう熱意やつながりある人や組織をつくるのは、我々が次世代への残すべき責務だと私は思っています。それこそが「幸せ/ウエルビーイング」の本質でもあります。

私は、多くの人たちのご協力を得て、最先端のテクノロジーにより収集した 1000 万日を越えるデータで、幸せで生産的な人間・組織を研究してしました。これを活用し、前向きな熱意でつながりあう人と組織をいかに醸成するかを長年研究してきました。

いよいよ、実組織で大きな効果を発揮できる段階になりました。このために、ハピネスプラネットという企業を３年前にスタートアップしました。

この講演では、この新時代の人と組織、マネジメントとそのためのテクノロジーについてお話します。

【略歴】

HITACHI
Inspire the Next

株式会社日立製作所
フェロー、理事

株式会社ハピネスプラネット
代表取締役 CEO

博士（工学）
IEEE Fellow
東京工業大学 情報理工学院 特定教授

山形県酒田市出身
1984 年 早稲田大学物理修士卒
株式会社日立製作所入社

1991 年から 1992 年まで、アリゾナ州立大にてナノデバイスに関する共同研究に従事。
1993 年 単一電子メモリの室温動作に世界で初めて成功し、
ニューヨークタイムズなどに取り上げられ、ナノデバイスの室温動作に道を拓く。

さらに、2004 年から先行してウエアラブル技術とビッグデータ収集・活用で世界を牽引。
論文被引用件数は 4500 件、特許出願 350 件を越える。
「ハーバードビジネスレビュー」誌に「Business Microscope(日本語名：ビジネス顕鏡）」が
「歴史に残るウエアラブルデバイス」として紹介されるなど、世界的注目を集める。

のべ 1000 万日を超えるデータを使った企業業績向上の研究と心理学や人工知能からナノテクまでの専門性の広さと深さで知られる。
特にウエアラブルによるハピネスや充実感の定量化に関する研究で先導的な役割を果たす。

1994 年 IEEE Paul Rappaport Award, 1996 年 IEEE Lewis Winner Award,
1998 年 IEEE Jack Raper Award, 2007 年 Mind, Brain, and Education Erice Prize を受賞。
2012 年 Social Informatics 国際学会最優秀論文など国際的な賞を多数受賞。
2020 年「人間中心の IoT 技術の開発と実用化に関するリーダーシップ」に対し、
世界最大の学会 IEEE の最高位の賞の一つである IEEE Frederik Phillips Award を受賞。

2014 年 7 月に上梓した著書『データの見えざる手：ウエアラブルセンサが明かす
人間・組織・社会』が、BookVinegar 社の 2014 年ビジネス書ベスト 10 に選ばれる。

2021 年 5 月『予測不能の時代：データが明かす新たな生き方、企業、そして幸せ』を上梓。

テレビは「夢の扉」や「クローズアップ現代」、「朝まで生テレビ」に出演。